

桐鈴凜々

第91号
平成25年9月15日発行
発行責任者
社会福祉法人 桐鈴会
理事長 黒岩秩子
南魚沼市浦佐5142-1
電話 025-780-4118
FAX 025-777-3731
e-mail
suzukake@rose.ocn.ne.jp
http://www17.ocn.ne.jp/~toureil/

桐鈴会の理念

・終のすみかを目指す
・「迷惑をかけ合える関係」を目指す
・高齢者、しょうがいしゃ、子どもたちが
安心して住める地域を創る。



「ケアホームおひさま」着工！

桐鈴会の組織として7ヶ所めの事業施設

— 11月17日完成予定 —

ケアハウス鈴懸施設長 林 幸英



この施設は、当初計画の目標ではすでに事業を開始している「工房とんとん」とセットで整備する予定で進めてきたところでしたが、国・県から認可されたのは平成24年度事業としての「工房とんとん」のみでした。

しかし、この二つの施設がセットにならないと当初の目的を達成することができなく、双方の施設が有効に機能しないことから、間を空けずに「ケアホームおひさま」を整備したいと考えていましたが、幸い24年度、追加予算で建設することが可能となり喜んでいきます。

7月11日に入札を行い、地元桐生工業（株）が落札いたしました。7月31日に榎本宗俊僧侶のもと安全祈願祭を行い、現在本体の基礎工事を終了し建前に向けて木工工事を進めています。おかげ様で9月17日（火）に上棟式を行うことが決定し、11月17日の完成に向けて急ピッチで工事が進められることになりました。施主側として、一週間でも10日でも早い完成をお

願いしているところです。

「ケアホームおひさま」は、障がい者を対象とした共同生活介護（定員4名）、共同生活援助（定員3名）、短期入所1名で事業運営される施設です。現在、入所申込受け付け中です。同時に新規職員（生活支援員及び世話人）をハローワークを通じて募集していますので応募をお待ちしています。

ボランティアさんとの懇親会

工房とんとん

サービス管理責任者 佐藤雪江

4月から始まった工房とんとんですが、生活介護、就労継続支援B型、カフェ、パン販売と多くの部門があり、初めての分野で職員はてんやわんやの毎日です。特に突発的な職員の欠

席の穴埋め、研修参加の機会の確保などが切実な課題です。

そこで天の助けとなつているのが、毎日どなたかが来てくださるボランティアさんの存在です。とんとんのボランティアさんはとても人数が多く現在24名ほどの登録があります。カフェのお手伝い、厨房の洗い物、パン工房の補助と、とても頼りになる存在です。厨房、カフェのお手伝いに関して横のつながりがあつて本人さんたちが曜日を決めてカバーしていただいています。日々とんとんを回転させていくことしか頭になかった私としてはただ頭をさげて感謝を伝えるのみの4ヶ月でした。そんな折、ボランティアさんとの懇親会をやるうとの声がかかり、7月25日とんとんの食堂で夕食会の形で実現しました。

一堂に会してボランティアさんのお顔を眺めた時にこんなに沢山の方に助けていただいていることを実感し、感極まる思いでした。

食堂には生活介護の利用者さんと職員で作った貼り絵が飾られ、緋の生地のテーブルセンターが敷かれ、温かい雰囲気になりました。

理事長の挨拶、ボランティアさんと職員の自己紹介、管理者の挨拶、ボランティアバンク会長のような森山里子（パン担当職員）の話と続きます。

とんとんにはアメリカ国籍プエルトリコ出身のダニエルさんも週5日間来てくださっています。

彼は日本人の奥さん（近くの小学校で英語を教えている）と結婚され、言葉を覚える意味でもよい機会との事。厨房での洗い物係りを担当しています。言葉をお互に交わさなくとも見ていて、物の配置や、次の仕事の段取り等、「あ、うん」の息でこなしていきます。日本人より日本っぽい感性？そんな彼と一緒に働いているボランティアさん、職員

の掛けあいがとても微笑ましく、厨房がなごめる場所になりました。懇親会も終盤にちかづき、ボランティアの佐藤三津江さんが、「一緒に歌おう」と彼を誘います。「幸せなら手をたたこう」と嬉しそうに二人が歌い始めいつの間にか、みんなの合唱になりました。

以前、あるボランティアさんが「ここに来るとやさしい人が

ちに会える。お店に来るお客様もそういうやわらかな印象の人が集まっている気がする」と伝えてくださいました。お客様、利用者さん、ボランティアさん、みなさんがとんとんを育ててくださっていることを実感できた懇親会でした。



ダンスパフォーマンス「田中瑞木の世界」の感動

村上恵子（十日町市在住）



6月15日から、田中瑞木展が工房とんとんと夢草堂を会場に行われました。かなり遠くから見に来てくださる方もあったりして、展覧会そのものは、見る人たちに感動をくださったのですが、7月28日、展覧会終了日には、ダンスパフォーマンス「田中瑞木の世界」が行われ、フィナーレを飾ったのです。

ダンスの一行は、ダンサーが4人、朗読が1人、シンガーソングライター1人、ハモニカ1人、音響2人合計9人というメンバーです。その演技を見ながらずうっと泣いていたという報告があったので、その方に原稿を書いていただきました。

心に響く素晴らしい時間でした。

私たちは「田中瑞木展」で素敵な絵とご家族・応援団にお会

いして、今回のイベントをとて

も楽しみにしていました。また、夢草堂でのご公演のシチュエーションはとてもユニー

クで映像が写し出された時、過去現在未来も創作もごちゃまぜでググッと引き込まれていきました。

ダンスはみずきさんのお母さんの心模様を表現したものでしたので、あの縦横斜めの激しい動きや人間的なしなやかな動きは生もののように柔らかで、かたくいろんなものを含んだエネルギーを感じ、豊かさを感じました。ダンスによるみずきさんの世界とご家族のご様子はわたしの心の中にも、皆の心の中にもある純粋な何か愛のようなものを呼び起こしてくれました。

ストーリーの中で作業所のSさんがみずきさんと約束をしたのになかなか来なくて2時間も待ち続ける姿やお母さんの子を想う情愛がダンスと朗読で読まれた時、私の実家・沖繩に脳に障害がある弟と母の姿が重なって思っただけは涙してしまいました。ですから特別なのもしれません。

Sさんが少しずつ変わっていったように思うのです・・・という朗読もあって、人が変わる時、頭で理解して変わるもので

なく、こんな真心のやりとりで人のこころは動くということを感じました。

帰ってからあの俊敏な動きを模倣して、意思のやりとりを二人ですべて楽しみました。重ねてお礼申し上げます。

東京からお越しになったみずきさんの両親・阿部ご夫妻と、大所帯の「メモリの童話集」(前納依里子さんが結成したグループ名)のアーティストの皆さま、開催くださった黒岩さまに出逢いやつなかりをいただいて、深く感謝しますとともに皆さまのこれからのご健康とお幸せをお祈りしてペンをおきます。

感謝をこめて

村上茂樹・恵子

村上茂樹さんは、村上すい星の発見者。ご夫妻で来てくださって、この文を読むと、お二人で「ダンスパフォーマンス」の動きを模倣して楽しまれたんですね。うれしいこと！



モの「メモリの童話集」の熱演するメンバー



(黒岩 秩子)

ピアノカバーが完成するまで：：樋口ゆかり



ピアノカバーの飾り付けを頼まれた時、自分に来るのかと正直不安でした。

でも、やっていくうちに、「やるからには皆が明るい気持ちになれるようなものを作ろう」という気持ちに変わりました。

色々な仕事をしながらの作業だったので、体調が不安定だったり、きついと思う時も何度もありましたが、職員の方や支援センターの方など、皆さんが体調を気遣ってくださいたり、カバーの進み具合を気にかけていただいたりして、きつい時頑張ろうと改めて思っていました。

デザインに行き詰った時も、浦佐の花火や六日町の花火を見てヒントを得たり、若井さんからレースやボタンなど色々提案

していただいたりして助かりました。

花なら本物に近づけたいと思いい始め、四葉のクローバーやひまわり、リボンなど、細かい所まで再現し、悩み、考えながら一か月かけて作り直しました。

カバー4面、全部の飾り付けが完成した時は、達成感とともに苦労して作って良かったという思いと、ホッとした思いでいっぱいでした。

見た方々、皆様の少しの癒しと明るい気持ち、幸せな気持ちになっていただけたら嬉しいです！

夢草堂にあるピアノにかけてあるので、良かったらぜひ見に行ってみてください。



ピアノカバー完成に関わってくさった方たち。左から、安部利一、井口龍哉、井口陽、樋口ゆかり(敬称略)

「すずカフェ adiel」新メニュー



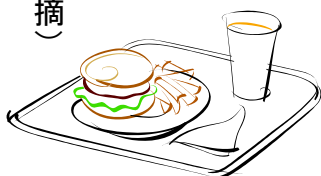
8月から「すずカフェ adiel」に新メニューが加わりました。その名も「すずカフェランチ」と「選べるパンランチ」です！すずカフェランチは工房とんとんで出している利用者と職員用給食をそのままランチにしました。始めはお客様に受け入れてもらえるか心配でしたが、予想以上に好評です。(700円) 選べるパンランチは今までBランチとして出していたもの名前を変えました。とんとんで売っている150円以下のお好きなパンを2個選んでいただき、今までどおりサラダ、スープ、デザートが付きます。(700円) パンを自分で選べるようになったことで、こちらも好評です。

ぜひ足をお運びください。

(工房とんとん

職業指導員

小川菜摘



「夏祭り」

夏祭り実行委員長 岡田としい

何よりも天が味方してくれていたのありがたいがたかった…：これで大成功でした。

8月2日（金）ケアハウス鈴懸駐車場を会場に、夕方からの約3時間夏祭りが行われました。

祭りのテーマを“見る楽しさ” “やる楽しさ”とし、出し物は次の「三本立て」を柱に演出いたしました。

○職員も参加しての、一字川流「安来節」の踊り

○地元保存会の盆踊り

○入居者「カラオケ愛好会」を中心とした「紅白歌合戦」

そして祭りを盛り上げてくれる主役の「屋台店」では「賑やかムード」づくりに花を添えていただきました。若干の反省点はありましたが来年に生かしていきたいと思えます。

役員等関係者各位、ボランティアの皆さま方の「頭」と「手」と「足」でご支援ご協力をいただいたことに、実行委員を代表して心からお礼を申し上げます。ありがとうございます。

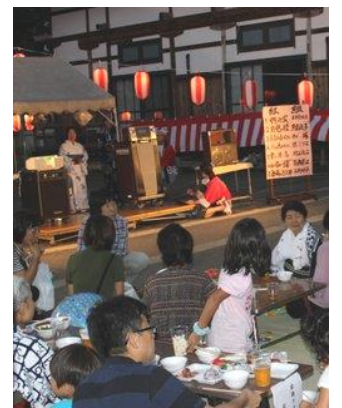
「紅白歌合戦」

夏祭り実行委員 並木昇
(カラオケ担当)



天がにわかにかき曇り、シャワーを全開にして灼熱の地上を冷やしてくれる時期でもあるが、精密機器にとっては天敵である。そこで、急遽歌合戦のステージに売店のテントを失敬してきた。寄せ太鼓の勇ましい響きに誘われてお客さんが集まってきた。屋台がオープンすると、どの屋台も大繁盛だ。

いよいよ歌合戦のときが来た。紅組トップバッターは、黒岩秩子理事長の「鈴懸の径」。白組のトップバッターは、佐藤剛理事の「恋唄つづり」。これは面白い対戦だ！お互いなかなか聞か



大勢の方で賑わいました。

せるなアー。皆さんはどちらに軍配をあげたかな？

番組は進み、いよいよ、おひとり同士の対決だ。これもまた面白い。紅組88歳・上村キヌ子さんの「番場の忠太郎」、白組94歳・田辺春一さんの「無法松の一生」。どちらもまだまだ負けな

一生」。どちらもまだまだ負けな

「カラオケ大好き」

工房とんとんメンバー
井口陽



私はカラオケが大好き！一番好きな歌手は島倉千代子。だから島倉千代子の歌の中で一番好きな「東京だよ おっかさん」を歌ったの。

練習は、お父さんに車でとんとんに送って貰う時に、練習したんだよ。歌う前は、緊張してお昼ご飯も食べられなかったけど、歌ったらとっても楽しかった。ホッと安心したらおなかが減って。やっと屋台のごちそうが食べられたの。美味しかった。来年も又出るよ。今度は、鳥



屋台は大盛況！

順番が近づくにつれ、緊張が高まり胸がときめいた方もいたそう。たまには緊張するのも心の体操になるかも！歌った後は爽快な気分だったに違いない。無事終了して、機器の設置場所、音響など、今後の課題も多々みえて来た。改善の余地ありのようだ。

来年も職員、役員から大勢の参加を望み、お客さんを楽しませることを期待したい。

命練習したいと思っているの。皆、楽しみにしているね！

(聞き書き)

工房とんとん管理者

星野淳子





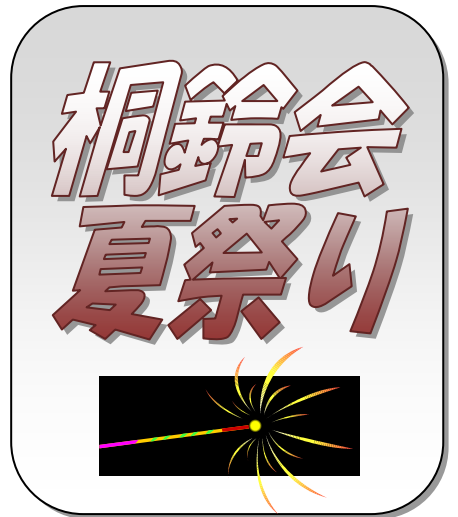
中島修さん（柳古新田）と
「柳古新田子ども太鼓」の皆さんによる太鼓演奏



18番の「椰子の実」を熱唱する
桐の花 片桐アキコさん

踊る阿呆に見る阿呆、同じ阿呆なら踊らぬ損々：。とは阿波踊りの掛け声で有名ですが、安来節もこの一節のとおり、踊らぬ損々の楽しい踊りでした。練習は7月22日から3回行われ、先生に五十沢の津久野で安来節を教えていらつしやる、一字川清栄さんをお招きし、ご教授をお願いしました。先生の後に続きながら腰を振り振り歩くお互いの姿に、終始笑い声が絶えませんでした。最初は恥ずかしかつて小さく振っていた腰も、練習を重ねる毎にどんどん

「笑って踊った安来節」
訪問介護員 上村久美子



チラチラと先生を見ながら…



ど
じょうをすくう。

大胆になつていき、参加した職員は汗だくになりながら、一生懸命練習をしていました。そうして迎えた夏祭り本番。とにかく楽しもう！と、踊り手全員がニコニコ笑顔で見事に踊り切り、観客の方々からも「笑ったよ！」と大好評を頂きました。踊り手も観客も一緒になつて楽しむことができた安来節、大成功でした！



さわやかな笑顔で…



桐の花に來られてからは、お元気に職員と共に家事仕事をしてくださっています。入居者さんにそつと寄り添って歩かれる、微笑ましい姿もあります。皆さん温かく見守ってください。

6月に高橋ミヤさんが亡くなられ、井口ミヤさんの入居が決まった時、同じお名前であることに何か深い縁を感じました。井口さんは五箇に住んでおられたのですが、昨年次女久子さんが突然亡くなり、東京に住む長女一家と生活することになりました。ところが、望郷の念は募り、人知れず涙する日々だったそうです。

新入居者紹介
桐の花 井口ミヤさん
グループホーム桐の花介護員
糸山和子

入居者からの投稿
「平和への願いを込めて」②
ケアハウス鈴懸 山岸トヨ

☆ 38度線を目指して歩く



家を出てからおよそ一ヶ月。14才を頭に5人の子どもを抱えた家族の足は集団から離れ、気がついた時には私たち親子だけになっていました。

連日の「野宿」に「食糧はなし」「風呂も入れない」で疲れもピークに達していました。少しばかり残っていた衣類は、農家の方にお願いで食べ物と交換していましたが、それも底をつき、畑のジャガイモの盗み掘りもしました。

川で洗い飯盒で蒸かして食べたあのジャガイモの味は私の人生の中一番美味しかったジャガイモの味です。

もう其の頃には、屈強な人達ほとんどん先に行き、皆、ばらばらになり家族単位での行動になっていました。それでも家族揃って行動できるのは幸せな方で、乳飲み子を抱えた家族などは、農家の軒先にお乳を求めて

泣く子をそつと置いて来た人達も相当いると聞いています。

あの時、母親は疲労と栄養不足でオツパイは出なくなり日に日に弱っていく子を助ける方法は「これしかない」と考えたからだと思えます。

戦後になり、中国からは残留孤児として沢山の戦争孤児の帰国が有りましたが、国交のない北朝鮮の孤児はどうなったのでしょうか。

優しい養父母にめぐり逢い、幸せに生きていることを祈ります。

☆ 元山(ウオンサン)に難民集結

体力も気力も限界に達した9月の中頃、やっと元山(38度線まで60キロ位の地点で日本海に面した大きな町)にたどり着いた。

町に入ると、現地の保安兵が、北から来た日本人難民を大きな河の河川敷に誘導した。

そこには、何千人とも知れぬ日本人が集められていた。

其の中には、同じ町から避難してきた顔見知りの人達もいて、子ども心にもホッと安堵の気持ちが出たのを覚えています。

其の河川敷では、一週間ぐらい野宿しました。風呂敷や衣類をつなぎ、木の枝に結び付けてテント代わりにし、砂や石の上に寝ました。9月も中頃になりますと夜は気温がぐつと下がり寒くてつらい河川敷生活でした。

☆ 貨物列車で感興(ハムフン)

に逆戻り

河川敷で一週間が過ぎた或る日、何の前触れも無く保安兵の誘導で移動が始まりました。

何処に行くのかも判らぬままに、人波から離れないようにと歩きました。

着いた処は元山駅、其処で有蓋車と無蓋車がいくつも連結された貨物列車に乗せられました。私たちは有蓋車に押し込まれました。立ったままぎつしり押し込んで外から「ガチャン」と鍵がかかり動き出しました。

家を出てから何百キロの長い道程、子どもたちを連れて山坂を越え、泥水をすすり、死に物狂いで鉄橋を渡り逃避行を続けて来た母にしてみれば、大勢の日本人と一緒に行動が出来、乗り物に乗せてもらったので、もうこれで日本へ帰られると安堵

したと思えます。

有蓋貨車の中は、30cm四方ぐらいの覗き窓が4個ぐらいしかなく外の様子も見えず、何処を走っているのか、本当に南に向かっているのかさえも判らぬままに時間が過ぎていきました。

小さな妹たちは、おしつこが我慢出来なくなり、母は飯盒を出して便器の代わりに使いました。

窓の少ない貨車に座することも出来ないすし詰め状態のまま、どの位走ったのか、降ろされた所は元山から百キロも北の感興の駅でした。あんなに苦勞して歩いた距離を後戻りしてしまっただけでした。38度線はもう目の前なのに。

貨車は蒸気機関車でしたので無蓋貨車から降りてくる人達は顔は煤で真っ黒、衣服も荷物もみんな煤だらけでした。

連れ戻された此の感興の町で一ヶ月程、少しは人間らしい生活をする事ができたのです。

でもそれは、その後の過酷な収容所生活が始まる前の一時の平穏でしかありませんでした。



(続く)

退職職員の挨拶

鈴懸おはようヘルプ

訪問介護員 山口瑠理子



ヘルパーの職員の皆さんが本当に良い人で、何度も辞めたいと思った時も、こんなに良い職場はないと思いなおし4年半頑張ってきましたが、このたび退職します。お世話になりました。

辞めてから4年半頑張った自分を自分で褒めている毎日です。たくさんの良い経験が出来、少しは成長出来たかな?と思います。たいへんな分、喜びもある仕事でした。20年後ヘルパーのKさんが、鈴懸に入居して83歳になった頃、おはようヘルプに帰ってきて介護する約束をしたので、20年後面接に来たら必ず採用してくださいね(笑)。
今までありがとうございます。

グループホーム桐の花

夜勤専門員 江部秀行

桐の花の夜勤専門員として、2年余り働かせていただきました。一人夜勤でしたが、緊急時

の医療連携、バックアップ体制が整備されており、また分からないことには親切にご指導いただきました。ここまで勤め上げることができたと感謝しております。そして、桐鈴会で学んだことを糧として、一歩ずつ進んで行きます。これから夏の疲れも出る頃かと思えます。皆様が健康で過ごされることを願い、退職の挨拶とさせていただきます。ありがとうございます。

新入職員の挨拶

鈴懸おはようヘルプ

訪問介護員 小関真理

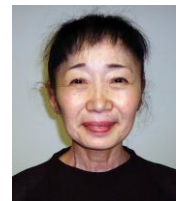


7月から、おはようヘルプで勤務させていただいている小関です。

3人の子どもの子育てをしながらパートで働いています。入居者の方に名前を覚えていただき、声をかけてもらえて嬉しいです。私も早く顔と名前を覚えていきたいと思います。よろしくお願ひします。

グループホーム桐の花

夜勤専門員 中俣てる子



「光陰矢の如し」とは昔の人が使っていた言葉ですが、私が桐の花の夜勤専門員をさせていたでいて、もう一年が過ぎました。

新人とはいえ、年齢だけは62歳と熟しております。事務職が主でしたので、介護職は全くの素人。右も左も分かりません。でも初めて夜勤の見習いに就いたとき、何とも言えない利用者さんの笑顔に出会えた瞬間に、この仕事に関わりたいと思いました。笑顔って素敵ですよ。心の底から湧き出る笑顔は、必ず人の心に響くと何かの雑誌に書かれていましたが、実際はとても難しいことです。時には利用者さんの言葉に「ハッ」とさせられたりして、利用者さんから学ぶことも沢山あります。この一年間何とか仕事にも慣れ、職場の皆様に迷惑をかけながら、旧2級ヘルパーの資格も取得させていただきました。この年になって若い人たちと一緒に

に学ぶことができるということは、私の人生設計にはなかったことです。

最後に介護職という仕事に導いてくれた友と、慣れない私を寛大な気持ちで見守ってくださる職場の皆様に感謝申し上げます。

グループホーム桐の花

介護員 糸山和子



このたび、縁あって桐鈴会の一員として働かせていただくことになりました。所属はグループホーム桐の花の介護員です。介護の仕事は介護保険が始まった頃からですから、まだまだ駆け出しです。

桐鈴会の理念に『「迷惑をかけあえる関係」を目指す』とあります。このことは「お陰様で」とか、「お互い様」とかの気持を大切にすることだと思えます。利用者の方に学び、職員の皆様に支えられ、悪戦苦闘の日々。今は迷惑をかけてばかりですが、皆さん宜しくお願ひします。

NPO在宅ケアを支える
診療所・市民全国
ネットワーク
「第19回全国の集い
in新潟 2013」
が開催!



9月22日(日)〜23日(月・
祝)の2日間、朱鷺メッセを会
場に行われます。

この集会で、桐鈴会職員2名
(ケアハウス鈴懸相談員・小林
裕子、グループホーム桐の花・
関和香子)が22日午後1時半か
らの実践交流会の「緩和ケアと
看取り」のコーナーで研究発表
を行います。2人の成果を是非
お聞きください。

また2日目の23日午前9時
30分から、当法人の黒岩秩子理
事長が座長を務める「障がい者
のケアを受ける立場から自立へ
の道を探る」分科会で、グルー
プホームひまわり利用者の庭野
正夫さんが体験発表を行います。
感動する内容です。ぜひ聞いて
みてください。

コンサートのお知らせ

全盲のご夫婦

音楽家 大石亜矢子 ・ 弁護士 大胡田誠

トーク & コンサート in 夢草堂

「だから無理」より「じゃあどうする」のほうが面白い!

音楽家の妻、弁護士の夫、お二人とも光のない世界で生きています。あれこれ失敗しても
工夫しながら仕事も子育てもあきらめない姿勢は、私たちに大きな光を与えてくれます。
今回は、ピアノと歌、興味深いトークでいっぱい光を浴びましょう。

日 時 10月6日(日) 13時30分より
13:30~15:00 トーク&コンサート
※ご家族がテレビ出演したDVD鑑賞もあります
15:00~16:00 茶話会

会 場 夢草堂
入場料 無 料
主 催 夢草堂運営委員会
協 力 弁護士仲間の皆さん
問 合 せ ケアハウス鈴懸
025-780-4118



「岸本祐有乃 & 子どもたちによる 吹奏楽コンサート」

日時 11月10日(日)
13:00開場 13:30開演
場所 六日町市民会館大ホール
費用 大人500円、高校生以下無料
出演者 六日町高校、城内中学校、
大和中学校、大巻中学校、
三用小学校の児童・生徒の皆さん
曲目 名探偵コナン、ロマンスク、宝島、
宇宙戦艦ヤマトなど
主催 岸本祐有乃コンサート実行委員会
後援 南魚沼市教育委員会
連絡先 ケアハウス鈴懸



*チケット販売は、ケアハウス鈴懸、六日
町市民会館、コミュニティーホールさわら
び、塩沢公民館など。

編集後記

今年の夏は、カラリと晴れた
日も少なく、雨の多いじめじめ
した日が多かった。

救急車のサイレンが、ピーポ
ーピーポーと昼も夜も聞こえて
くる。ああ、また急患かと心が
痛む。新潟県内で熱中症のため
病院に運ばれた人は500人を
越えたとか。

大風の被害も多く、竜巻の威
力には吃驚した。大変な夏であ
った。

秋が深まるに連れて待たれる
のは、大地が育んだ美味しい果
物である。柿のトロリとした甘
さを味わえるのももうすぐだ。

ぶどうも栗もいいネ。果物や野
菜は食べるだけでなく、絵に
なるので二重の楽しみである。

ベランダから望めば山頂にか
かる白い雲。抜けるような青い
空。移り行く季節に、山も木立
も色々な表情を見せてくれる。

夜は虫の声に耳を澄まし夜長
を楽しむ。田舎ならではの心安
らぐ一時である。

久々に絵筆を持ってみようか
と、そんな気持ちになった今日
この頃である。
(阿部房江)

